令和4年度 福岡市総合教育会議

議事録

○日 時

令和4年10月11日(火)10時25分~11時00分

○開 催 場 所

福岡市立百道浜小学校 2階多目的ホール

○出 席 者(7名)

市 長 髙 島 宗一郎

教育委員会 石 橋 正 信(教育長)

町 孝 原 志津子

武 部 愛 子 西 村 早 苗

德 成 晃 隆

議事次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 議事
- (1) 協議事項
 - ① 学びの改革 \sim これまでの実践と ICT とのベストミックス \sim \sim 「学びを支える伴走者」としての教師のあり方 \sim
 - ② 児童生徒と教職員のWell-being について
- (2) その他
- 5 閉会

※開会前に「ICT を活用した授業」の視察(約20分)を実施。

○協議が行われた事項

(1)協議事項

○令和4年度の取組みの進捗報告と今後の方向性について 教育委員会から、学びの変革、児童生徒と教職員の Well-being について説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・ICT を最大限活用しながら、子どもたちを導いていくというファシリテーターとしての先生の能力を上げることが必要。
- ・子どもたちが意欲的・主体的に学べる働きかけについて、そこをどう支えていくかという 伴走者、或いは、支援者性ということを再確認しながら、その上で、ICT ツールの効果的 な活用や課題に合わせたサポートを検討していく必要がある。
- ・探究と協働の学びをさらに目指していきながら、新たな教育問題に取り組んでいく必要 がある。
- ・テクノロジーも含めて教師の質の向上を図る研修が不可欠。校内研修など様々な研修を さらに強化していく必要がある。
- ・本日の「ICT を活用した授業」について、上位 10 校に入っている研究校だからできているのではないかとも思ったが、このような授業が市全体でできるようになってくると、日本の教育そのものがレベルアップすると思う。それにより、本当の意味で Society5.0 を実現できる国になっていけると思う。
- ・学習動画やAIドリル等の教材が準備されたことによって、先生のファシリテート能力がより求められる。一方で、事前の授業の準備などが軽減されることを期待している。
- ・Well-being については、想像を超える良い調査結果が出て、非常によかった。
- ・児童生徒のアンケート結果で唯一肯定的回答が8割を超えていないのが、将来の夢や目標 を持っているという中学生の割合である。中学生で夢や目標を持つということは大事。
- ・先生方の結果を見てみると、日々の仕事の喜びや楽しみを感じている割合や自分の仕事が 人々の生活をより良くすることに繋がっていると思う割合も高く、非常にそれは良かった。 しかし、働き方が多くの選択肢の中から選べる状態にあるかという質問に対しては、肯定 的回答が6割を切っている。Well-beingの3要素の一つが、「自分の仕事を選択できるか どうか」ということであり、そこがすごく大事。この部分が向上しないと、先生方のWellbeingには繋がらない。
- ・将来の夢や目標を持っているというところについて、中学生になって現実に向き合いな がら、受け止めて来ている数字。コロナ下の社会情勢を映したものが影響をもたらして いるのではないか。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思うとか、友達と協力するのが楽しいというところのポイントはすごく高い。こういうところは、将来社会に出ていくときの素地が育っているのではないか。
- ・今後コロナと折り合いながら、職場体験などリアルな活動が可能になってくれば、遠隔 とリアルと両方のバランスをとって、キャリア教育にも力を入れていきたい。
- ・夢を見ることに関して、特に中学生に関しては、夢を見ること自体に慣れていない。未

来を思い浮かべることに慣れていない子どもたちが育ってきているというのは日頃から 感じているところ。楽しく将来を語れるようなチャンスが必要。

- ・中学生で、自分にはよいところがあると思うという質問に対する肯定的割合が、少し低い。自分のいいところをこれはいいところだと言い切れない、自信のなさというものも日常的に感じる。子ども同士の関わり、大人との関わりの中からお互いに認め合っていけるといい。
- ・教員の仕事の大変さは随分前から感じていた。先生方が少しでも多くの時間、子どもたちと向き合い、信頼関係が築けるような環境を作ることが、我々の仕事ではないか。体も心も健康な子どもたちと先生方の働き方との相乗効果をこれからも期待している。

(2) その他

- ・コロナの影響からか不登校というのが今、全国的に増えてきている。不登校の理由は 様々だが、福岡市内ではどうなっているのか、しっかり分析をし、その原因に対しての アプローチをぜひしっかりとお願いしたい。
- ・原因分析の上、適切な対応がとれるよう、学校復帰だけではなく、社会的自立もできる ような方法など、様々な方法を考えていきたい。

発言者	発言内容
新穂企画調整部長	定刻となりました。これより、令和4年度 福岡市総合教育会議を開催
	いたします。
	私は、本日の司会をつとめさせていただきます、総務企画局企画調整部
	長の新穂でございます。よろしくお願いします。
	それでは開会にあたり、髙島市長からごあいさつをお願いいたします。
髙島市長	教育委員の皆様方におかれましては、日頃から子どもたちの教育の推進
	について大変お力添えいただいていることに、感謝申し上げます。
	本日の会議に先立ち、授業の様子を見学させていただきました。ICT
	を活用した授業がどのようになっているのかを直接見せていただきまし
	たが、大変驚きました。素晴らしい授業をされていましたし、子どもた
	ちの眼差しと学びたいという姿勢が素晴らしかったです。画面を使いな
	がら仲間と話し、一緒に学びを共有し、例えば発言することが苦手であ
	っても、オンライン上で発言ができ、それを先生が紹介して、というよ
	うな活発な授業が行われていることに心強さを感じました。教育現場に
	おいて、ICT などを活用しながら、子どもたちがどうすれば興味をもっ
	て、より深い学びにつながるか、積極性につながるかということに努力
	いただいている校長先生はじめ、現場の皆さん方のご尽力に改めて感謝
	申し上げたいと存じます。
	さて今日は、前回のこの会議でもお話をさせていただきました、学校
	現場の Well-being についてもテーマとして挙げていただけるということ
	になりました。テーマ全体としては、ICTも含めた学びの改革、それか
	ら児童生徒と教職員の Well-being についてということで、現在の状況を
	聞かせていただきながら、意見交換させていただければと思っておりま
	す。
	今日はどうぞよろしくお願いいたします。
新穂企画調整部長	続きまして、石橋教育長からご挨拶をお願いいたします。
石橋教育長 	教育委員会を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。
	市長も大変お忙しい中、総合教育会議を開催していただきまして、本
	当にありがとうございます。市長からお話がありましたとおり、今の学
	びの改革と Well-being は、まさに中教審でも取り上げられる全国的なテ
	ーマであり、本日こうした形で意見交換をさせていただけるということ
	は大変ありがたいと思っております。
	市長からいただきましたご意見を踏まえながら、今後教育行政を進め
	てまいりたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいた
女在人工中中中	します。
新穂企画調整部長	それでは議事に移ります。本日は「学びの改革」と「児童生徒と教職員
	の Well-being」の2つの事項について意見交換をお願いしたいと考えて
	おります。

協議事項ごとに、資料について、教育委員会事務局から説明をいただい た後、意見交換を行う形でそれぞれ進めていきますので、よろしくお願い いたします。

会議終了は11時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。 それでは、まず、「学びの改革」について、教育委員会事務局から説明 をお願いいたします。

木下指導部長

まず、小・中学校における学びの改革について、資料に沿って説明させていただきます。資料の1枚目をお願いします。

福岡市における、1人1台端末をはじめとするICTを活用した授業は、端末を整備した令和2年度から3年度にかけての「GIGAスクール導入期」から、令和4年度から取り組んでいる「GIGAスクール発展期」へと、大きく変革しています。

「GIGA スクール導入期」においては、資料の左側にあるとおり、「学習動画やデジタル教科書を活用した分かりやすい授業」、「AI ドリルを活用した個別学習や反復学習」、「やむを得ず登校できない児童生徒へのオンライン授業」などを行い、基礎学力の定着や学びの保障に取り組んでまいりました。

オンライン学習では、令和4年2月2日の実施人数が、4万2,000人を超え、また、いじめゼロサミットでは、約7万人の児童生徒が同時オンラインで参加するなど、これまでにはできなかったことを ICT によって実現してまいりました。

さらに、福岡市が独自に実施している学力調査においても、オンライン 化しているところです。

このような取組みによって、教員の ICT 活用能力は格段に向上し、授業での日常的な活用が定着しております。

資料の中ほどのグラフをご覧ください。

ほぼ毎日 ICT 機器を活用して授業している教師の割合が、小学校で90%を超え、全国平均プラス23.8 ポイント、同様に中学校でも大きく上回っております。

また、ほぼ毎日授業で1人1台端末を活用していると回答した児童生徒が、中学校で全国を28.8ポイント上回るなど、着実に授業改善の成果が表れています。

そこで、資料右側ですが、令和4年度からの「GIGAスクール発展期」においては、「慣れる」から「使いこなす」といった活用の質を、さらに向上させていくためのセカンドステージととらえ、「これまでの実践」と ICT のベストミックスによって、学校教育における様々な課題を解決するとともに、子どもの学びを支える伴走者としての教師の役割を明確にし、主体的・対話的で深い学びを実現してまいります。

そのために、「ICT 推進リーダーの教員を中心とした校内研修や教育セ

ンターでの研修の充実」、ここ百道浜小学校をはじめとする「モデル校 12 校での ICT を活用した授業の公開や実践事例の発信による、すべての教員の ICT 活用指導力の向上」、「学習履歴等の教育データの利活用など、ICT を活用したデータ駆動型の教育へと転換」などに取り組んでいるところでございます。

資料の2枚目をお願いします。

さきほど説明した「子どもの学びを支える伴走者としての教師の役割」 について、説明いたします。

左側にあるように、これまで学校では、一斉授業を前提とし、いわゆる チョーク・アンド・トークによる指導が重視されてきました。

このことについては、一定水準の教育を保障するなどの成果があるものの、教師の能力に依存したり、子どもたちの多様化への対応が求められたりするなどの課題もあります。

そのため、これからは、教師の個性やこれまで培ってきた授業力をいか しながらも、ICTも活用した学びを支える伴走者としての役割が重要にな ってまいります。

そのキーワードは、「主体的な学びのサポーター」と「協働的な学びのファシリテーター」です。

まず、サポーターとしての教師の役割は、子どもの成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、子どもの特性等を踏まえてきめ細かく指導・支援していくことです。

具体的には、「学習動画による指導の均質化」や「AI ドリルによる、理解度に応じた繰り返しの指導」、「一人ひとりの学習履歴を十分に活用した、複数の教員による個に応じた指導」などによって、個々の可能性を最大限に引き出し、知識・技能の習得や学習意欲の向上を図ることです。

次に、ファシリテーターとしての教師の役割は、一人ひとりのよい点や 可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生 み出していくように導いていくことです。

具体的には、「動画を見て、自分の思いや考え方をまとめ、それを基に全体で交流し、一人ひとりが新たな意味や考えを創り出す授業」、「子どもたちが調べたことや考えたことをプレゼンなどで表現し、他者に伝え、自分の考えをより一層確かにするような授業」などを通して、児童生徒の思考力や表現力を育成していくことです。先ほど見ていただいた授業でもそういった姿が見られたかと思います。

子ども一人ひとりの学びを最大限に引き出すためには、日々の授業において、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていくことが重要だと考えています。そのため、教師一人ひとりが伴走者としての役割を意識し、日々授業改善に努めていくよう、今後も教育委員会と各学校で、しっかりと取り組んでまいります。

	説明は以上でございます。
 新穂企画調整部長	それでは、ここから10分程度を目途に意見交換に入りたいと思います。
WIND THE PROPERTY	スムーズな意見交換となるよう進行は髙島市長にお願いしたいと思いま
	す。髙島市長よろしくお願いいたします。
 髙島市長	今、資料の1枚目と2枚目の説明をしていただきました。
	特に資料の2枚目ですが、教育委員会から、こうした内容を出していた
	だけるということも、本当に素晴らしいと思いました。まさに問題意識と
	して、教師の役割が、チョークアンドトークというこれまでの授業で「教
	える人」という存在から、「伴走者」に変わっていくんだということを教
	育委員会自らおっしゃっていただけるというのは、本当に素晴らしいと思
	っています。特に私自身が問題意識として持っていた、例えば病気で学校
	に通えない子どもや不登校の子ども、それから担当する先生によって、例
	えば社会科が好きになった、嫌いになったということではなくて、ここに
	書いてある表現を使うと、「指導の均質化」ですね。どこにいてもどんな
	状況であっても皆同じように学ぶことができるということ、それから学び
	を定着させるためには、受け身だけではなくて、自分が人に教えるなど能
	動的になったときに、学力や覚えたものが本当の自分の身になるというこ
	 と、それがまさに体系的にまとめられて、これから教育委員会としてこう
	いう風にやっていきたいということがよくわかりました。
	その上で、こうなっていくためには当然、教員の皆さんの ICT を使った
	 教え方、伴走の仕方がこれまでの一方的な授業と違ってくると思います。
	ICT を最大限活用しながら、子どもたちを導いていくというファシリテ
	ーターとしての先生の能力を上げるために、教育委員会はこれからどのよ
	うにされていくのでしょうか。
	これは、ひいては教育学部でどんな能力をつけていくかということにも
	かかってくると思います。
	今日の授業は、もう心配が要らないくらい、本当にばっちりできていた
	と思いますが、市内すべての小中学校、高校の中で、こうしたことを先生
	方がアップデートしていくために、どういったことをこれからされていく
	のでしょうか。また、どのように先生方を ICT などを活用するスペシャリ
	ストに育てていこうとされていらっしゃるのかについて、まずお伺いした
	いと思います。
德成委員	本来教師が行う学習指導や生徒指導など、「指導」と言われるものが
	ありますが、本来の意味は、命令や監督では決してありません。
	導くとか働きかけるとか、促すというような意味がこれまでもあった
	と思いますが、子どもたちが意欲的・主体的に学べる働きかけについ
	て、今日授業で見せていただいたように、子どもたちが自分たちでどん
	どん対話をしたり調べ学習をしたりという、そこをどう支えていくかと
	いう伴走者、あるいは、支援者性ということをもう一度再確認しなが

	ら、その上で、ICTツールの効果的な活用であるとか、課題に合わせた
	サポートをどうするのかということを考えていく必要があると思いま
	す。
	そして、今日の特に社会科の授業で私も感じたのが、探求と協働の学
	びということがもう既に出来ているということです。
	こういった子どもたち同士の相互理解であるとか表現力ということ
	 を、これからさらに目指していきながら、新たな教育問題に取り組んで
	 いく必要があると思います。
	現在、世界の教育の趨勢である、第4次産業革命に対応する学びのイ
	 ノベーションについては、テクノロジーも含めて教師の質の向上を図る
	 研修が不可欠ですから、校内研修など様々な研修をさらに強化していく
	 必要があると思っております。
	以上です。
町委員	■ 私も、徳成委員と同じように感じております。今日授業を拝見させて
	 いただいて一番感動したのは、ICT の素晴らしさもありますが、子ども
	 たちのブラインドタッチの速さ、これにはびっくりしました。私もタイ
	 ピングは早い方ですが、子どもたちの可能性というのはすごいなと思い
	ました。
	 福岡にはパラリンピックの道下美里選手がいらっしゃいますね。
	 伴走の際に伴走ロープ"きずな"を使いますが、先生と子どもたちと
	 いう意味では、そのきずなロープが ICT だと思います。
	 これをどうやって使いこなすかというのは、先ほど市長がおっしゃっ
	 たように、先生方の教えとともに子どもたちは自ら学んでいけるのでは
	ないかと思います。
	│ │ 世界的に 2018 年までの PISA 調査などでは、日本は残念ながら 1 周 2
	 周遅れの国でしたが、それが一気に飛躍したということが、今日ここに
	 来てわかり、安心しました。
	トレイン ただこれが、先ほど市長がおっしゃったように、上位 10 校に入ってい
	 る、研究校だからできているのではないかとも思いましたが、これが市
	 全体でできるようになってくると、日本の教育そのものがレベルアップ
	 してくると思います。
	│ │ それにより、本当の意味で Society5.0 を実現できる国になっていける
	のではないかと思います。
	次の第5次産業革命は、我々の時代とは随分変わります。
	ICT などが揃えられ、それをこれからどう活用していくかということが
	大事になってくると思います。
	確かに、自分の5~6年生の頃を思い出すと、今の授業はすごかったで
	すね。教育委員会からは何かありますか。
 石橋教育長	2枚目の資料について、市長からもよく教育委員会自ら出してくれたと
	1

	おっしゃっていただきましたし、これを実際どうやってすべての学校にア
	ップデートしていくかという問題意識を教育委員会も持っておりますの
	で、この後様々な ICT の先進事例を収集して、アップデートしていきたい
	と考えております。データ駆動型教育への転換を見据え、教育データの効
	果的な活用に向けて、さらに客観的なデータの収集に努めてまいりますの
	で、引き続き教育委員会の予算をよろしくお願いいたします。
木下指導部長	教師の学びも、子どもと一緒だと思っております。教員が主体的に学ぶ
	ためには、動画を使ったりしながら学んでいく。そして、ファシリテータ
	ーとしての役割というのは、教員自身が授業を通して実際に経験していく
	ことが大事だと考えております。研修についても、しっかり動画で学ぶ部
	分と、教員自身がファシリテートの役割というのを体験しながら学んでい
	く、そういう研修を充実していきながら、それを支える教育委員会であり
	たいと思います。
髙島市長	学習動画や AI ドリル等の教材が準備されたことによって、先生のファ
	シリテート能力がより求められるようになってくると思います。一方で、
	事前の授業の準備などが少し軽減されるのかなということは期待をして
	います。先生方は、学校以外の時間でも、準備などで非常に忙しいと伺っ
	ていますので、それが少しでも軽減され、先生方の Well-being が向上す
	ることを期待しています。
	もう一つ学校として、子どもの福祉的な要素である、見守りの要素につ
	いてもより重要性が増してくると思います。
	ですから、スクールソーシャルワーカーの配置はしておりますが、ぜひ
	こうしたものを導入すると同時に、学校での福祉的な要素での見守り、こ
	うしたところも、ぜひ検討いただければと思います。これは感想です。
	他の委員からご意見等なければ次の議題に行きますが、よろしいでしょ
	うか。
新穂企画調整部長	それでは、次に「児童生徒と教職員の Well-being」について、教育
	委員会事務局から説明をお願いいたします。
峯川職員部長	それでは、児童生徒と教職員の Well-being について、資料に沿って説
	明させていただきます。資料の3枚目をお願いします。
	はじめに、Well-being についてですが、Well-being とは、「身体的、精
	神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、人々の満足や充
	実、幸せなどを表すもの」でございます。
	福岡市においては、今年度の市政運営方針に「Well-being を大事にす
	るまちづくり」が掲げられています。
	また、市長が有識者として参加された「教育再生実行会議」における「第
	12 次提言」や、国の「骨太の方針」においても、Well-being の理念の実
	現やWell-beingの向上を目指すこととされております。
	そこで、教育委員会では、まずは現状把握を行うため、今年度新たに「児

童生徒と教職員のWell-beingアンケート」を実施いたしました。

児童生徒約12万人については、7月に「生活習慣調査」で。

教職員約1万人については、7月から8月に「ストレスチェック」にあ わせて、アンケートを実施しております。

本日は、その結果と、児童生徒・教職員それぞれのWell-beingの向上にむけて考えられる方策などについて、説明いたします。

はじめに児童生徒のWell-beingアンケートの結果です。

左の欄をご覧ください。Well-being を測るため、子どもたちにいくつかの質問をしました。

資料にある6つの質問項目のうち、「学校に行くのは楽しいと思う」「自分には、よいところがあると思う」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「友達と協力するのは楽しい」という5つの質問については、肯定的回答の割合が8割を超えました。

対して「将来の夢や目標をもっている」という質問には、小学生は8割強が肯定的回答を示しましたが、中学生は7割弱と小学生に比べ低い値となっております。

全体的に見ると高い数値となっておりますが、これら、児童生徒のWell-beingのさらなる向上のためには、引き続き、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による教育相談・支援体制の充実を図るとともに、すべての子どもたちが主役として参加し、自らの学びを深めることができる授業を実施していきたいと考えております。

次に、教職員の Well-being アンケートの結果です。

右の欄をご覧ください。Well-being を測るため、教職員に3つの質問をしました。この質問項目は「福岡市Well-being & SDGs 登録制度」において、事業者などに実施いただいている従業員へのアンケート項目と同じです。

結果でございますが、1問目の「あなたは、日々の仕事に、喜びや楽しみを感じていますか」という設問と、2問目の「自分の仕事は、人々の生活をより良くすることにつながっていると思いますか」という設問については、7割以上の教職員が肯定的回答を示しました。

対して、3問目の「自分の仕事や働き方は、多くの選択肢の中から、あなたが選べる状態ですか」という設問については、6割弱と若干低い値となっております。

これら、教職員のWell-beingのさらなる向上のためには、働き方改革のさらなる推進が必要と考えており「11時間の勤務間インターバル」の徹底や「男性教職員の育児休業100%」を推進してまいります。

また、教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう、部活動指導員の 増員やデジタル採点システムの導入などを検討し、ソフト・ハード両面か らサポートしてまいります。

子どもと向き合う時間を確保し、さらに子どもたちに深く関わり、「子どもたちから信頼される教員」となることで、教職員自身の Well-being も向上していくと考えております。

また、教職員のWell-beingが向上し、あわせて、教員が子どもと向き合う時間がさらに増えれば、それが、子どもたちのWell-beingのさらなる向上につながっていくのではないか、と考えております。

今後も、教育委員会では、引き続き、児童生徒と教職員の Well-being 調査を実施するとともに、さまざまな施策において、Well-being の視点を意識していきたいと考えております。

説明は以上でございます。

新穂企画調整部長

それでは、ここから 10 分程度を目途に意見交換に入りたいと思います。 進行を髙島市長にお返しいたします。髙島市長よろしくお願いいたしま す。

髙島市長

今ご説明いただいた中で、このWell-being については、私も国の教育 再生実行会議の中で、こうしたお話をさせていただいて、これに基づいて 所謂、骨太の方針や市政運営方針の中に反映させてきたわけですが、実際 の調査については、どういう結果が出るのかと思って、正直ドキドキした ところもありました。結果として、想像を超える良い結果が出て、それは それで非常によかったと思っています。

一方で、児童生徒のアンケート結果で唯一8割を超えていないのが、将来の夢や目標を持っているという中学生の割合で、これだけが8割を切って72.2%となっています。もちろん年齢が上がれば上がるほど、現実と向き合うことになるということもあると思うのですが、理由について、どういったことがあると考えていらっしゃいますでしょうか。また、中学生で夢や目標を持つということが大事だと思いますので、そのためにどう対応していくのが有効と考えていらっしゃるのかということをお伺いしたいと思います。

他方で、先生方の結果を見てみると、激務だということは存じ上げているのですが、日々の仕事の喜びや楽しみを感じている割合や自分の仕事が人々の生活をより良くすることに繋がっていると思う割合も高く、非常にそれは良かったと思っています。しかし、働き方が多くの選択肢の中から選べる状態にあるかという質問に対しては、肯定的回答が6割を切っています。

Well-being の3要素の一つが、「自分の仕事を選択できるかどうか」ということであり、そこがすごく大事だと思いますので、ここを上げていくためには、どうしたら良いか。この部分が向上しないと、先生方のWell-beingには繋がらないと思っているので、日頃から教育現場と関わりのある教育委員の皆様からご意見があればお伺いをしたいという2点をまず

	私から述べさせていただきました。では、ご意見やご感想があればお願い
	します。
原委員	将来の夢や目標を持っているというところについて教育委員の間でも、
	少し意見交換をしましたが、市長がおっしゃったように、やはり中学生に
	なって現実に向き合いながら、将来の夢や目標という言葉ではなくても、
	少しずつそれに向かい、現実化しながら受け止めて来ている数字なのかな
	というのが一つと、やはりコロナ下の社会情勢の流れですね。社会情勢を
	映したものが影響をもたらしているのではないかという意見も出ており
	ました。市長が、他の質問項目については大変ポイントが高いとおっしゃ
	ったように、例えば人の役に立つ人間になりたいと思うとか、友達と協力
	するのが楽しいというところのポイントはすごく高いです。こういうとこ
	ろは、将来社会に出ていくときの素地が育っているのではないかなと思っ
	ておりまして、今後コロナと折り合いながら、職場体験などリアルな活動
	が可能になってくると思われますので、遠隔とリアルと両方のバランスを
	とって、キャリア教育にも力を入れていきたいと考えております。
武部委員	夢を見ることに関して、特に中学生に関しては、小学校時代だった3年
	間のわくわくする行動の少なさというのはもちろんありますし、テレビを
	つけると、不安になるような報道がとっても多いということで、夢を見る
	こと自体に慣れていないというか、未来を思い浮かべることに慣れていな
	い子どもたちが育ってきているなというのは日頃から感じているところ
	です。これは大人たちと和気あいあいと話すというと変ですが、そういう
	会話を現実にできるかどうかは別として、語り合いの時間はやはりたくさ
	ん作っていかないと、もちろんオンラインでも構わないですが、そういう
	ことをしながら、楽しく将来を語れるようなチャンスが必要だなというこ
	とを思っています。
	私はもう一つだけ中学生の割合で気になるところがあり、自分にはよい
	ところがあると思うという質問に対する肯定的割合が、少し低めなんです
	ね。
	お友達と自分のいいところを探すということをしたときに、たくさんの
	項目を用意して、その中からお友達のいいところを探すときには、個数を
	5個に限ると、5個に減らすのにものすごくみんな困るんです。
	しかし、自分のいいところを同じ項目で5個選ぶように言うと、5個も
	選べなくて困るという、自分のいいところを自分でこれはいいところだと
	言い切れない、何だか自信のなさというものも日常的に感じるところがあ
	るので、この辺もみんな子ども同士の関わり、大人との関わりの中からお
	互いに認め合っていけるといいなと思っています。
髙島市長	ありがとうございます。他にございますか。はいどうぞ。
西村委員	仕事や働き方について、多くの選択肢から選べる状態ではないと感じて
	いる教員が多いという課題があると思いますが、日頃より教員の皆様とお

話をさせていただく機会が多くありますので、その中で仕事の大変さを感 じているところが随分前からありました。 授業以外でも、事務的な仕事や、保護者の方々や地域の方々との関わり であったり、幅広く取り組んでおられ、本当に感謝することばかりでした。 一方で心配もありまして、特にここ数年のコロナ下で、授業や行事をた だ中止してしまうだけではなく、これまでに行ったことのない授業のスタ イルや行事など工夫を凝らして、子どもたちの学びを止めないということ を実践してこられたように感じております。 そしてそれが大変なご苦労であったことは、節々に感じておりました。 加えて、保護者や地域の方々のご理解とご協力が、先生方へのプラスに なっていたというのもすごく感じておりました。 また最近では、感染状況も少し落ち着いてきたので、まだまだ形を変え ながらだとは思いますが、行事なども行えるようになってきていて、少し ずつ、日常が取り戻せてきているのではないかと感じています。その分、 AI だけでは片付かないような先生方のご負担も増えてきていると思いま す。負担が増えることはとても心配ですが、先生方から自ら、行事の復活 などを、生き生きとしたご様子でお知らせいただくと、その隣に子どもた ちの元気な姿が見えるようで、先生方が働くことの原動力は、本当に子ど もたちの笑顔なんだと感じています。そのためにも、先生方が少しでも多 くの時間、子どもたちと向き合い、信頼関係が築けるような環境を作るこ とが、我々の仕事ではないかなと思っています。体も心も健康な子どもた ちと先生方の働き方との相乗効果をこれからも期待しています。 髙島市長 他にございますか。はいどうぞ。 先生方のアンケートのところですが、アンケートですので、選べる状 武部委員 況だとは思っていないという主観なので、選べる状況にないのではな く、先生方が選べる状況にはないと思っておられるという、その義務感 のほうが強くなっている可能性があるということです。 今西村委員がおっしゃったように、先生方はとっても頑張られるし、 どこからこんなにエネルギーが出るんだろうと思います。 子どもたちの役に立つため、子どもたちを育てるために必要だと思っ ていることが先生方のやりたいことだとして、きちっとそれが認められ るというのも変なんですが、やるべきことということではなく、やりた いことをやっているんだと先生方が認識できるような声掛けであった り、状況を作っていってあげられるということがとても大事なのかなと 思います。 他にございますか。はい、どうぞ。 髙島市長 町委員 AI を使って採点をやってみたいと、中国地方のある県の一番の進学校 の先生が言っています。その先生は、AI で自動採点できる部分がかなり あるとおっしゃっています。それを使うと3割程度、いわゆる自分の時間

	が増えたと言っておられました。
	そういったソフトなどの導入には、やはりお金がかかるので、ぜひ、市
	長に予算確保の方でご尽力いただけたらなと思っています。
	それがやはり先生方の働き方改革にもなります。子どもだけではなく、
	先生方にとっての一番やりやすい方法になるかなと思います。
髙島市長	しっかりそこは応援していきたいと思います。
	そうやって ICT を使って、最適化できる部分を最適化する。
	一方で非認知能力のような数値化できないものもあると思いますが、ア
	ンケート結果を見ると、将来人の役に立つ人間になりたいと思うという割
	合が 95%を超えてるというのは本当に心強いし、これが子どもたちの一
	部ではなくて、全体の平均なので、表れているのだろうなと思います。
	非認知能力でいくと、例えば、今少し心配しているのが、コロナ中で、
	マスクをつけていましたが、そうするとマスクを外していいよと言って
	も、何か恥ずかしいというか、人の表情などがなかなか読み取れない、表
	情をうまく出せない、みたいなことが生まれてくるんじゃないかと思って
	います。
	これは子どもたちだけではなくて、大人もそうだと思いますが、より子
	どもの方が、マスクを外しにくいということがだんだん習慣になってきて
	いるのではないかということを少し心配しています。
	いずれにしても、効率化できる部分については、しっかり ICT も使い、
	そしてそこは教育委員会からお話しがあれば、市長部局としても、予算と
	してしっかり応援していきたいと思います。よろしいでしょうか。
新穂企画調整部長	それでは、次に「その他」として何かございますでしょうか。
髙島市長	一つあるとすると、これは全国的な話ですが、コロナの影響からか不登
	校というのが今、全国的に増えてきていると思います。不登校の理由は、
	いろいろあると思いますが、福岡市内ではどうなっているのか、しっかり
	分析をしていただいて、その原因に対して、どうアプローチをしていくか
	ということについても、今非常に課題になっていると思いますので、そこ
	への分析、アプローチをぜひしっかりとよろしくお願いしたいと思いま
	す。
石橋教育長	ご指摘いただきました通りでございまして、不登校児童生徒は全国で
	20 万人ですね。
	福岡市でも令和3年度は3,500人を超える不登校児童生徒がいます。
	市長にご指摘いただいたとおり、コロナ後にどうするかということは大
	きな課題となりますので、原因分析の上、適切な対応がとれるよう、学校
	復帰だけではなく、社会的自立もできるような方法など、様々な方法を考
	えたうえで、ご相談させていただきたいと思いますので、よろしくお願い
	いたします。
新穂企画調整部長	それでは、閉会にあたりまして、髙島市長からご挨拶をお願いいたしま

	· ,
	す。
髙島市長	ありがとうございました。
	教育委員の皆様とお話をさせていただき、そして教育委員会からこうし
	た現状を聞かせていただいて、進捗がよくわかりました。
	今日の子どもたちの活発な議論と授業に、非常に私は勇気づけられたわ
	けであります。
	今日出た意見も踏まえて、これから市長部局と教育委員会と一緒になっ
	て、しっかり未来の福岡の子どもたちのため、連携を深めていければと思
	いますので、今後ともよろしくお願いします。
	ありがとうございました。
教育長・教育委員	ありがとうございました。
新穂企画調整部長	これをもちまして、令和4年度 福岡市総合教育会議を終了します。